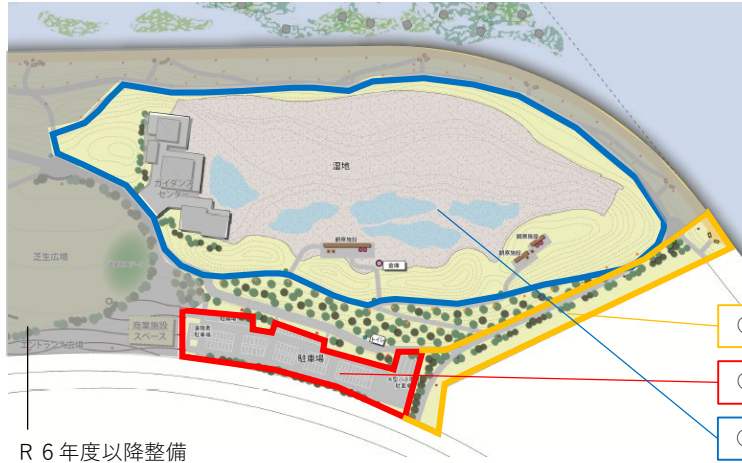


## R5年度までの整備について

### 【位置】



R6年度以降整備

### 【スケジュール】

| エリア名   | 整備年度  |
|--------|-------|
| ①東側園路  | R2～R4 |
| ②駐車場   | R5    |
| ③湿地エリア | R4    |
| ④植栽    | R4～R5 |
| ⑤照明灯   | R5    |

- ①東側園路
- ②駐車場
- ③湿地エリア
- ④植栽
- ⑤照明灯

※ガイダンスセンターについては、整備時期未定。利用状況などを見極めて検討予定。

## 整備内容について

### ① 東側園路

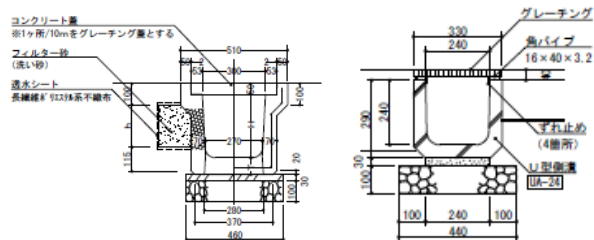
ヒートアイランド現象の緩和

主な施設 園路・照明灯・排水施設・植栽  
仕 様

園路・・・透水性脱色アスファルト  
照明灯・・・LED照明  
排水施設・・・透水側溝など

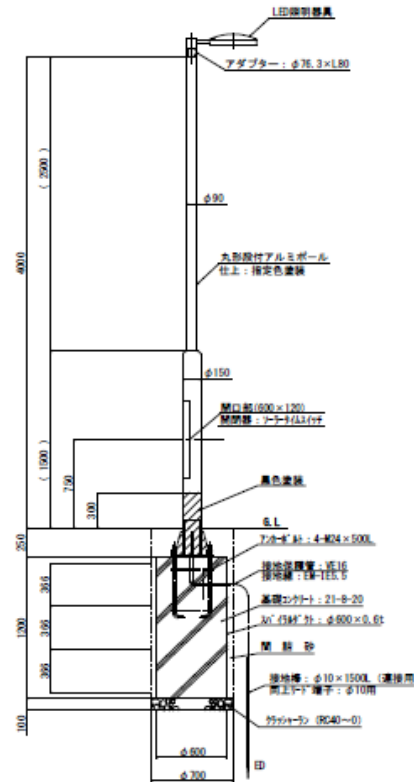


【舗装表層（例）】



【排水施設（例）】

※側溝や集水桝には、落ち込んだ小動物（トカゲ、カエル等）が這い上がれるよう、ロープを垂らすなど生物への配慮を行う



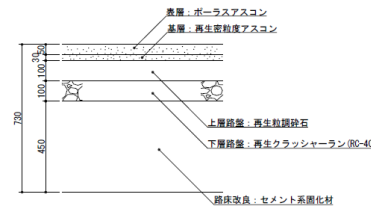
【照明灯（例）】

### ② 駐車場

ヒートアイランド現象の緩和

主な施設 園路・照明灯・排水施設  
仕 様

舗装・・・（駐車部分）耐踏圧性芝生舗装  
（その他）透水性アスファルト  
照明灯・・・LED照明  
排水施設・・・透水側溝など



【舗装表層（例）】



【耐踏圧性芝生広場（例）】

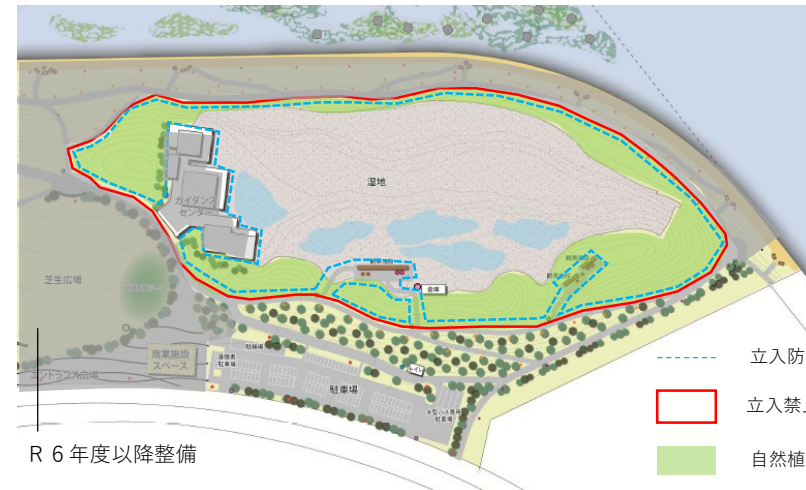


### ③ 湿地エリア

湿地へ光が入り込まないように配慮  
芝は張らずに現状の自然植生を活かす

主な施設 観察施設（R4年検討予定）・立入防止柵（R4年検討予定）  
水門等（水位調整のため、必要に応じて整備。板柵など簡易的な物で検討）  
※ガイダンスセンター（未定）  
※湿地エリア内には、照明灯は設置しない  
湿地エリア内の排水施設については、素掘り側溝とする  
湿地エリアの境界に設置する排水施設については、小動物の落込みに対応するため、這い上がり階段や、ロープを垂らすなど、配慮を行う。

植 栽 自然植生（草地）  
理由① 現在の環境が、鳥類、昆虫類などの生物にとって、豊かな餌環境となっており、芝の単一植栽にすることで、生物への影響が予想されるため  
理由② 来園者の立入を制限するエリアであるため、芝である必要がない



R6年度以降整備

- 立入防止柵
- 立入禁止エリア（観察施設等を除く）
- 自然植生（草地）

# はばたき公園の整備内容（～R5年度）について

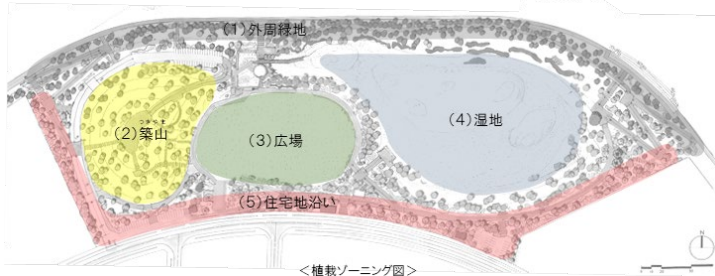
## ④ 植栽（東側園路、駐車場、植生づくりエリア）

### 上位計画の植栽計画について

#### 基本計画（整備プラン）における植栽計画【抜粋】

##### 5. 植栽計画

- ・公園内をゾーニングし、利用特性に応じた植栽を計画します。
- ・アイランドシティ及び周辺の既設公園・緑地の生育状況や、本公園予定地で自生している植生を参考に、樹種の選定や配植を行います。



#### 住宅地沿い

- ・良好な住景観と一体となり、高質な空間となるよう四季の花木、花をおりませた植栽を行います。  
(シイ、カシ、シマトネリコ、オガタマ、オリーブ、ゲッケイジュ、ナナミノキ、カナリヤシ、ブラッシノキ、イロハモミジ、ウミネコザクラ、オオシマザクラ、エゴノキ、コブシ、シモクレン、ザクロ、フヨウ等)
- ・潮風の影響が少なく、人通りが多い箇所を選定し、市民による記念植樹等を検討します。

#### 基本設計における植栽計画【抜粋】

##### 3. 植栽及び植栽基盤

##### (1) 植栽に係る前提条件

海岸部に位置することによる植栽への影響や周辺の植生、アイランドシティはばたき公園基本計画及びアイランドシティの主な緑地の植栽計画を把握し、本計画における植栽計画を検討する上で配慮すべき事項を整理する。

##### 1) 周辺環境からみた条件

- ①立地条件・気象条件 計画地は博多湾の北東部に位置し、冬に北西からの季節風が強く、また、海岸部に隣接することから潮風による影響が考えられる。
- ②周辺の緑地・植生 周辺環境における自然植生は、東側対岸の牧の鼻にタブ群落、また上和白から和白にかけて照葉樹(シイ・カシ)萌芽林が発達している。



| ゾーニング     | 特性・機能   |
|-----------|---|
| 緩衝緑地      | ・隣接する住宅地との緩衝機能をもったゾーン<br>・住宅地と一体となった高質な空間の形成<br>・初期における緩衝機能の確立と将来的な観賞木中心の構成への移行 |
| 市民と育む緑地   | ・市民と共に育てていく緑地<br>・苗木から育てていくことで、市民の公園に対する愛着を醸成                                   |
| エントランス緑地  | ・来園者を迎える顔となる緑地<br>・グリーンベルトとの連続性の創出  |
| 四季のプロムナード | ・憩いと安らぎを与える散策の緑地<br>・四季の移り変わりを感じる花木や落葉樹を中心とした構成                                 |
| 芝生広場      | ・多目的に利用される開放的な広場<br>・緑陰を形成する高木の植栽   |
| 展望広場      | ・海への展望が開ける視点場<br>・象徴的な地形となる築山   |
| 海沿いの緑地    | ・海との一体的な開放感を演出  |
| 建築周り      | ・施設を修景する彩ある植栽<br>・樹形の優れた樹種による構成   |

### 今回の植栽計画における考え方

#### ■高木

樹種選定に際しては、海に面した厳しい環境下での生育を第一に考え、**耐潮性の高い樹種および侵略的外来種以外から**の選定を前提条件としたうえで、以下の3種から選定する。

- 照葉樹**：周辺の植生、IC中央公園の樹種構成と一体的な緑を創出するため、照葉樹を選定する。
  - 観賞木**：近隣の住宅地や来園者へ向けた緑の彩を演出するため、四季の観賞木や紅葉樹を選定する。
  - 食餌木**：豊かな生物相の創出を図るため、野鳥が飛来する可能性のある樹種を選定する。
- ※猛禽類が湿地の鳥を狙うスポットとならないよう、木の配置に配慮する。  
また、**猛禽類などが多数集まるなど、問題が発生した場合には、樹木の剪定等を行い、樹木の高さを制限し、対応を行う。**

#### ■低木・地被

丘陵地の緩やかな起伏により構成される園内の景観と、海への開放的な一体感を阻害しないように用いる。

※生物多様性への配慮のため、樹木については、できるかぎり地域種を使用する

#### ■エリア毎考え方

##### 湿地エリア

- ・湿地エリア内には、原則、高木や芝などの植栽は行わない。

##### 駐車場

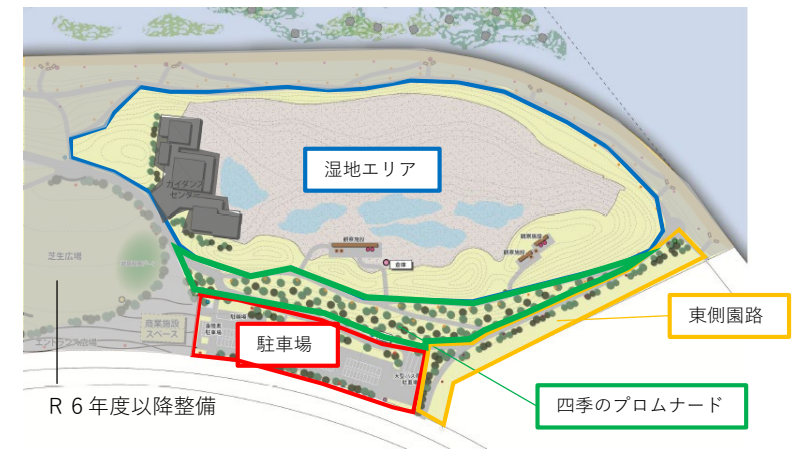
- ・車や、隣接する歩道に支障にならないよう、横張する樹種や、実が落ちる樹種は控える。
- ・出入口付近にはビューポイントとなるよう、樹形が整った比較的大きな規格の樹木を選定

##### 東側園路

- ・民地が隣接するため、緩衝帯の機能と、散策路としての花木など鑑賞木を混合する。
- ・枝などが民地に越境しないよう高木を植えないバッファーを3m設ける。

##### 四季のプロムナード

- ・周辺の植生(シイ・カシ・タブ等)を基調とし、食餌木や、花木を混合して植栽。
- ・丘陵地の緩やかな起伏のある景観をいかすため、高木については、自然樹形となるよう、植栽間隔を十分に確保する。
- ・猛禽類が湿地の鳥を狙うスポットとならないよう、木の配置に配慮する。



R6年度以降整備